








写真：牧野定雄制作面（おもて）

2017 年　牧野信一朗読会

演目　鬼涙村（きなだむら）

郷土の小説家牧野信一（1896-1936）の代表作のひとつ『鬼涙村』には村人の祭りのために主人公とともに面を作っている「御面師」が登場します。

そして、主人公たちの作った面を被り、いたずらをする子供たちも…

作家の甥である牧野定雄氏が制作した面が四方から見つめる異空間で行う朗読会となります。乞うご期待！（展示協力:小田原面（おもて）乃会）

会場：清風閣多目的ホール（小田原市久野 511　潮音寺内）

日時：11 月 26 日（日）午後 2 時～ 4 時

天柱山玉宝寺「五百羅漢」見学を希望される方は、午後 1 時足柄駅集合

朗読　：蔀　英治　（俳優）

解説　：柳沢孝子　（元開智国際大学教授）

参加費：1000 円　事前申し込み制（定員 80 名）

☆朗読会に先立ち、会場にほど近い玉宝寺の『五百羅漢像』を見学します。希望される方は、午後 1 時に足柄駅に集合ください。

主催：牧野信一の文学をたたえる会

後援：小田原市／小田原市教育委員会／西さがみ文化フォーラム／西さがみ文芸愛好会／小田原ペンクラブ／北村透谷を偲ぶ会／小田原の城と緑を考える会／潮音寺

協力：小田原面之会 / グローブ文芸シアター / 牧野信一 WEB サイト「続・西部劇通信」/ コネクト株式会社

面、面、面に囲まれ、鬼涙村（きなだむら）‥



◆作家について　　牧野信一（1896 ～ 1936）

早稲田大学在学中、同人誌『十三人』に発表した処女作「爪」を島崎藤村に褒められ、しだいに作家を志す。幼い頃に渡米後、帰国して小田原に戻った父を題材にした「父を売る子」「父の百か日前後」など私小説的作風から、昭和初期には「鱗雲」「ゼーロン」「鬼涙村」など小田原地方を舞台とした独自で幻想的な作品を次々に発表するとともに、文芸誌『文科』を主宰するなど活躍したが、昭和 11（1936）年 3 月、小田原の実家で自殺。東京では、2003 年より、小田原では 2008 年より作品朗読会が開催されている。2013 年には、短篇「地球儀」が全国センター入試で出題され、話題となった。



◆朗読者プロフィール　　蔀（しとみ）英治さん

福島県出身。シェイクスピア・シアターに約 10 年在籍、退団後文学作品の朗読、演出を始める。牧野信一作品は、これまで 10 数本朗読。小田原での牧野作品の朗読は 2008 年「心象風景」「ゼーロン」より 5 回目。

他の主な朗読作家：ディケンズ、チェーホフ、中原中也、宮沢賢治、ボルヒェルト

朗読劇演出作品：「マクベス」、「ハムレット」（シェイクスピア）、「クリスマス・キャロル」（ディケンズ）、「復活」「幼年時代」（トルストイ）、「キリストの縦の木祭りに召された少年」（ドフトエフスキー）等

◆解説者プロフィール　　柳沢孝子さん

東京都出身。2016 年まで開智国際大学教授。著書に『牧野信一―イデアの猟人』（1990 年、小沢書店）、『私小説の諸相－魔のひそむ場所』（2010 年、双文社出版）、編著に『日本文学研究資料新集 25　宇野浩二と牧野信一』（1988 年、有精堂出版）。小田原での朗読会には、解説者としてしばしば登場。わかりやすい作品解説が好評を得ている。

◆申し込み・お問い合わせ：

小田原：090-5409-3071（小泉）

080-5450-2708（潮音寺・安藤）

東京：042-440-7772（コネクト内）

◆会場のご案内：潮音寺清風閣多目的ホール



交通案内　■小田急線　足柄駅下車、徒歩5分

※小田急線新宿方面からは、新松田で各停に乗り換え、足柄駅下車、又は小田原から各停でひと駅です。

※お車の方は小田原厚木道路「小田原西」より直ぐです。

〒250-0055　神奈川県小田原市久野511

Tel：0465-34-0385（潮音寺）